

接続期教育研修（第2回）

受講者数 297名

配信期間 令和4年12月23日（金）～令和5年1月27日（金） オンデマンド配信

講師 大阪総合保育大学 児童保育学部 特任教授 神長 美津子 氏

【内 容】

幼保小の架け橋プログラムの重要性や実施に向けて大切にしたい視点などを学び、就学前教育・保育施設と小学校の連携や子どもたちの円滑な接続を図るために必要な知見を深めます。

【受講者の感想】*** 研修で学んだことを教育・保育にどう活かしていきますか****<小学校>**

- ・架け橋期は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる重要な時期であると学んだ。
- ・子どもたちが、就学前にどのような体験や活動をしてきたのか把握し、それらを活かした学習を計画していくことが必要である。
- ・子どもの発達を幼児期から長期的な視点で捉え、「無自覚的な学び」から「対話的な学び」、さらに「自覚的な学び」をどう成立させていくのか、架け橋期を通して考えていきたい。
- ・学びの充実だけでなく、学びの楽しさを教えられるような授業を行いたい。
- ・デジタルならではの学びとリアルな体験からの学びを、しっかりと両立させていきたい。
- ・入学した子どもたちが、幼児教育との違いに戸惑うことのないように、幼保小で連携して手立てを考えていきたい。
- ・カリキュラムの「見える化」を通じて、就学前施設や保護者と連携を図りながら、これからも指導を進めていきたい。
- ・「共通の視点」をもつためにこそ、幼保小で具体的な取り組みを共有し、連携を取っていく必要がある。
- ・子どもの実態、悩みや課題も多様であると日々実感している。全体指導だけではなく、個と個の関わりの時間を設け、寄り添うことが大切だと思った。

<就学前施設>

- ・遊びを通しての学びが、資質・能力を育むことにつながる。生活と学びの基盤づくりとして「遊びの充実」を進めていきたい。
- ・架け橋期に保育者が果たすべき役割が明確に示され、保育の計画や実施にあたり、非常に参考になった。
- ・子どもの成長を長期的な視点で捉え、0歳から18歳までの学びの連続性を意識していきたい。
- ・20年、30年後を見据えて保育していくこと、子どもたちの将来に責任をもって関わっていくことの大切さに改めて気づいた。
- ・就学前施設で取り組んできたこと、学んできたことなどを小学校へつなぎ、活かされる連携をしていきたい。
- ・遊びや学びのプロセスから共通の視点をもった取り組みができるように、幼保小連携をしていきたい。
- ・「0歳だから～ができていないといけない」と捉えるのではなく、「～ができるためには、どのような経験やプロセスが必要か」を考えていきたい。
- ・すべての子どもが格差なく質の高い学びを受けられるように、施設の種別を問わず保育者が共に学びながら意見交換し、保育者自身の質を高めていきたい。